

# いわいの大地

4月

No.51

農家と農業委員会をつなぐ広報誌



〔川崎地域〕  
藤原 弘子さん (71)

## 女性目線で生産者と消費者のパイプ作り



展に貢献しています。

国道284号線を一関方面から東に進み、北上大橋を渡ってまもなく右側に「道の駅かわさき」があります。

その駅長に2月11日に就任した藤原弘子さんは東山町出身で7年前に川崎町に移住されました。

3年半前に道の駅の課長に就任し、そして1年半前に店長を歴任され、今回駅長になられました。

道の駅かわさきは岩手県37駅中3番目の売り上げを誇っており、常に新鮮な野菜や加工品を消費者に提供して地域農業の発

展に貢献しています。藤原弘子さんは、道の駅がオープンしてから20年が経過している農家さんの高齢化や担い手不足などもあり、農家さんと連携を密にし、新規に野菜などを供給していただく方の発掘や、定期的に軽トラ市を開催し、新しい物品の販売なども行ってきたいと語っていました。今取り組んでいるのは、毎日の朝礼と昼礼の時に、従業員からお客様の声や職場の問題点などを聞き改善していくこと、女性目線でインフォメーションフロアを利用したイベントの開催(取材時は吊るしびなやウサギびなの展示を行っていた)を進めていきたいと話されていました。農地利用最適化推進委員 小野寺 修

## 農作業を安全に

見直そう！  
農業機械作業の  
安全対策



近年、農作業中における死亡事故の発生は多発傾向にあります。岩手県内では10年間で100名もの尊い命が失われています。一関市においては、令和4年には農作業死亡事故の発生はありませんでしたが、令和2年に2件、令和3年に1件の農作業死亡事故が発生しています。

農作業事故は、ほ場だけではなく、公道や自宅の敷地内など、普段から作業を行っている身近な場所でも発生しています。また、機械作業中以外にも、ほ場への移動や機械の点検整備中など、発生状況は様々です。

このような事故を起こさないために、次のことに気を付けて農作業を行いましょう。

- 農業機械の点検・整備は、必ずエンジンを停止してから行いましょう。
- いざという時に、運転者以外でもエンジンを停止できるよう、日頃から農業機械の緊急停止ボタンやエンジンキーの位置を家族で共有しておきましょう。
- 転落事故から体を守るため、トラクターには安全フレームをつけ、運転者はヘルメット、シートベルトを装着しましょう。
- なるべく一人での作業は避け、家族にはあらかじめ作業場所と帰宅時刻を知らせておきましょう。
- 農作業に出かけるときは、携帯電話を持ち歩きましょう。



# 女性農業委員 研修会

女性がいることで  
困ることなど一つもない

農業委員

松岡 千賀子

2月9日、盛岡市で令和5年度いわてポラーノの会総会および女性農業委員・農地利用最適化推進委員会活動研修会が開催されました。研修会は農業委員会会長、事務局長との合同開催で、「地域計画づくりを成功させる5つの合意形成」の演題で前向きで具体的な講演がありました。

総会では地区の理事が中心となり、地区内の女性農業者等の意見交換会、スキルアップのための研修会、JAいわて中央管内の肉用牛繁殖農家・肥育農家の女性による「いわて中央牛愛女子会」との意見交換会、女性の委員の登用促進に向けた取り組み、また北海道・東北ブロック女性農業委員・農地利用最適化推進委員研修会「女性が活躍する農業委員会」の報告がありました。

続く研修会では、地方考夢員<sup>こうむいん</sup>®研究所長(二社)全国農業会議所専門相談員澤畑佳夫氏の講演が行われました。市町村は地域農業の将来のあり方について協議の場を設け、目標地図を含めた地域計画(人・農地プランとの連携)を2025年3月までに策定することになっています。講演では「成功させる5つの合意形成」として①市町村内部の合意形成②関係機関・団体等との合意形成③農業委員・最適化推進員との合意形成④認定農業者等との合



意形成⑤地域全体での合意形成が重要と話がありました。また「地域計画については農地計画とした方が分かりやすいと思う。農地の集積・集約をより具体化するため、農地利用の未来設計図をまとめ、図面で見える化することが必要になってくる。そしてすぐに取り組まなければならないことは、地域での座談会で農業者も行政もお互いの考えや思いを語り合うこと。文句や愚痴を言っているだけでも行動を起こさなければ何も変わらない。」と現場に多く関わってこられた経験からの考察も聞くことができました。

私たちが住んでいる一関が慣習など古い意識や地域性にとられることなく、年齢、性別、立場などの多様性を受入れ、「変革」するための取り組みができる更なる環境になっていけるように行動していきたい、と思いを新たにしました。

## 女性農業委員地区別懇談会開催 ～SDGsをゲームで学びました～



県内女性農業委員組織「いわてポラーノの会」所属の一関・平泉地区女性農業委員が主催する地区別懇談会が1月18日、一関市総合体育館で行われ、一関市と平泉町の農業従事者など20人が参加しました。

SDGsと農業の関わりを学ぶ機会に、と企画されたもので、当日は(株)ムライロCOMPANY代表取締役の村井淳さんを講師に、カードゲームを通してSDGsの17の開発目標について理解を深めました。

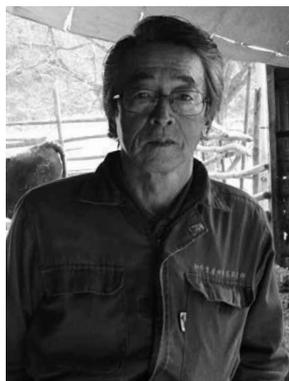
とくに農業に関連する「食糧の提供」「環境問題の解決」「労働力の確保」の分野の目標については、参加者から、個人でも積極的に取り組んでいきたいとの意見がありました。



# 農業者年金で老後も安心!

先が見えない今だから  
農業者年金に加入を!

〔花泉地域〕岩渕 正司まさしさん



農業者年金は農業者の方なら広く加入できる年金です。詳しくは一関市農業委員会事務局へお問い合わせください。  
電話 43-3606

岩渕正司さんは、農家の跡取りとして育ち、高校卒業後に水稻を主体に和牛繁殖、ぶどうの複合経営に取組み、その後町内の仲間と研修を経てぶどうから和梨に切り替え、妻美代子さんと二人三脚で専業農家として頑張ってきました。

導入した当時、花泉地域は和梨の北限といわれ栽培管理には大変苦労したが、仲間と研究を重ねてここまで来ることが出来た、と振り返る。

また、正司さんは、夏川地区基盤整備事業推進委員を始め、旧花泉町から市町村合併時の一関市農業委員を経験するなど、地域のリーダーとして信頼も厚い。

農業者年金は旧制度で加入したが、平成14年の新制度に移行した際には、国の政策支援制度に該当したこともあり、継続して加入されたとのこと。

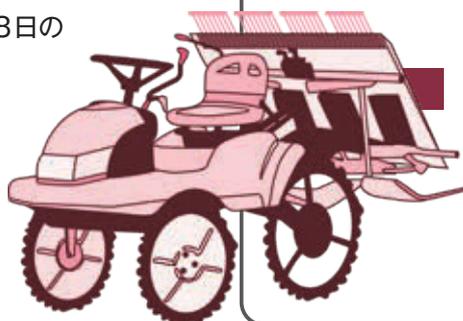
今農業は、燃料や肥料・農業等生産資材の高騰により、厳しい経営環境に立たされていますが、先が見えない今だからこそ農業経営と生活の安定を図るため、若い担い手の皆様に農業者年金への加入を勧めたい、と話してくれました。

農業委員 佐藤 多賀幸

## 令和5年度農作業標準賃金決定

農業委員会では、  
令和5年度農作業標準賃金を  
別紙のとおり決定しました。

標準賃金の決定にあたっては、2月3日に各地域の受委託農家などから構成する農作業標準賃金審議会を開催し、最低賃金の引き上げや経済情勢、他市町の動向などを基に審議しました。審議の中では、受委託者双方から、若い人が農業に魅力を感じるようにならないという意見が複数あり、人力の部、機械の部ともに引き上げとなりました。機械の部については、農機具や燃料費などの高騰により更なる引き上げを求める意見もありましたが、生産物の単価が上がっていない状況の中で、委託者も受託者もお互い苦しい中でやっているという意見もあり、一律2%の引き上げで集約されました。その後、2月8日の農政専門委員会での協議を経て、2月24日第18回農業委員会総会で議決されました。



### 令和5年度の変更項目

#### ◆人力の部

- 人力作業1日(8時間)当り  
6,900円から7,500円に引き上げ
- オペレーター1日(8時間)当り  
10,600円から11,000円に引き上げ

#### ◆機械の部：一律2%引き上げ

- 田植え
- 同時施肥  
520円加算を1,100円加算に
  - 同時薬剤散布  
520円加算を1種類につき330円加算に

標準賃金表は、目安を定めたものです。実際に作業料金を決める際は、地域の事情や圃場の条件を勘案し、委託者と受託者で充分に話し合っ調整してください。

# 事務室移転の お知らせ

農業委員会事務局は川崎農村環境改善センターに移転しました。



## 農業委員会事務局移転先

- 住所 一関市川崎町薄衣字諏訪前137  
(川崎支所隣り川崎農村環境改善センター内)
- 電話 0191 (43) 3606
- FAX 0191 (36) 5606

一関地域の農地のご相談、申請は  
農政推進課(本庁4階)でお受けします。

- 電話 0191 (21) 8421
- FAX 0191 (21) 4221

## 農地賃借料情報

農地法の改正により、従来の標準小作料は廃止され、地域における賃借料の目安となるよう農業委員会が実勢の農地賃借料情報を提供することになりました。

令和4年1月から同年12月までに締結(公告)された賃借料における賃借料水準(10アール当たり)は、以下のとおりとなっております。

### ① 田(水稻)の部(10a当たり)

	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	4,992円	9,009円	1,906円	979
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	4,876円	8,831円	2,000円	230

### ② 畑の部(10a当たり)

	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	2,521円	4,000円	1,213円	37
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	2,041円	3,500円	958円	49

### 備考

- 今回公表する賃借料情報は実際の契約に参考としていただくために、それぞれの地域ごとに契約額が極端に高額、低額(平均値の1.7倍以上および0.3倍以下のもの)な実例をあらかじめ削除した後、全体集計しております。
- 実際の農地の賃借には、賃借料が無料の使用賃借契約もありますが実例として含めておりません。
- 実際の農地の賃借契約の際は、対象農地の収穫見込み量や形状、および隣接する道水路などの状況を考慮して、両方で協議の上決定してください。



「いわいの大地」編集委員  
 編集委員長 佐藤 和威治(藤沢)  
 副委員長 畠山 潔(大東)  
 編集委員 松岡 千賀子(一関)  
 佐藤 多賀幸(花泉)  
 遠藤 真一(千厩)  
 佐藤 想司(東山)  
 藤原 美喜男(室根)  
 小野寺 修(川崎)

農業委員 畠山 潔

今までは「いわいの大地」が、縮小、中止となっていた  
 楽しむイベントが日常的に戻りつつうれしい。これ  
 から楽しい時代が来ることを夢に、いつのまにか眠りについた。

今後ますます遊休農地が進むことが考えられることから、県や県選出国会議員に対し、基盤整備事業導入に向け、速やかな取り組みと予算確保について要望したところである。

若者達に一関市の農業の魅力の発信と、現農業者にとつて一層元気が出る魅力ある記事や情報を提供していきたい。

今日、日常生活でITの先端技術がここまで来たかと驚く。農業の世界にも無人運転トラクターなど先端技術が押し寄せ、農作業の形態も日々進化してきていると感じる。

### 編集後記

